

● 大阪府岬町 多奈川ビオトープ ●

生きもの図鑑

2026



多奈川ビオトープ企画・運営会議

南海電気鉄道株式会社・日本ビオトープ管理士会近畿支部
(地独) 大阪府立 環境農林水産総合研究所・岬町・大阪府

多奈川ビオトープとは…(I)

- ★ かつて、この場所は山や谷が広がっており、たくさんの生きものが暮らしていたものと思われますが、**1999年から8年間**、「**関西国際空港**」第二期事業の土砂採取が行われました。
- ★ 跡地は、多目的公園「いきいきパークみさき」として整備され、その一角に、約**2.4ha**の「**多奈川ビオトープ**」があります。
- ★ ここでは、かつてここに暮らしていた生きものたちを呼び戻そうと、彼らの生息場所となる湿地やため池、草地を創出・維持管理するなど、「**自然再生**」に取り組んでいるところです。
- ★ また、ボランティアによる「**自然再生活動**」だけでなく、「**自然観察会**」や「**自然体験イベント**」なども開催しておりますので、皆様も一度お越しになられてはいかがでしょうか。
- ★ なお、これらの取り組みが評価され、**2024年3月**に環境大臣から「**自然共生サイト**」の認定を受け、生物多様性を効果的かつ長期的に保全しうる地域として、国際的な「**OECMデータベース**」にも登録されました。
(**2025年9月**には、地域生物多様性増進法に規定する計画としても認定されました。)
- ★ さらに、**2025年9月**、ネイチャーポジティブの実現に向けた、先進的な取り組みを実施しているとの評価を受け、**関西万博**会場での環境省の催事に参加しました。



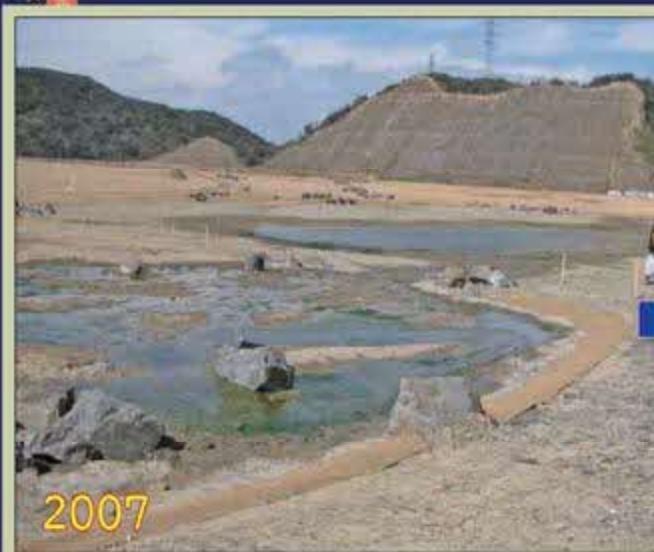
多奈川ビオトープとは…(Ⅱ)



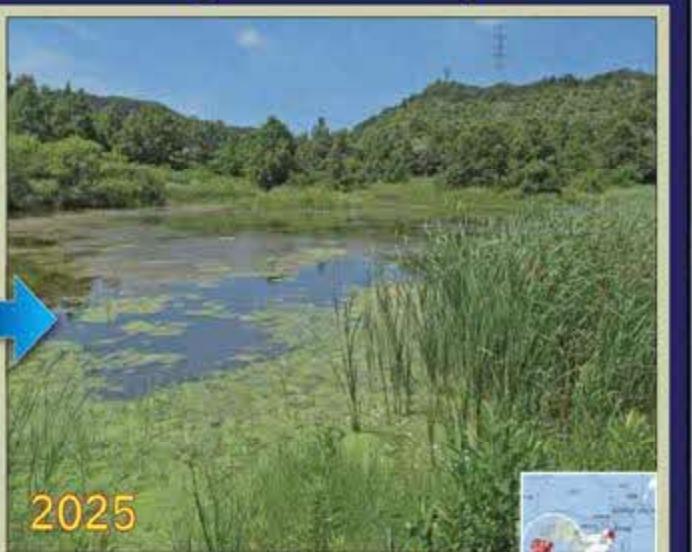
関西万博での展示 (2025.9.19~23 於 ギャラリーWEST)



Nature restoration in the Tanagawa Biotope (自然再生)



2007



2025

Planning and Management Meeting of Tanagawa Biotope (企画・運営会議)

- ◆ Misaki Town (岬町)
- ◆ Nankai Electric Railway Co., Ltd. (南海電気鉄道株式会社)
- ◆ Japan Biotope Management Association Kinki Branch (日本ビオトープ管理士会 近畿支部)
- ◆ Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture (大阪府立環境農林水産総合研究所)
- ◆ Osaka Prefecture (大阪府)



日本ビオトープ管理士会 近畿支部

生きもの地図づくり

この『生きもの図鑑』は、毎回の「自然観察会」の記録と「生きもの地図」を作成しました

虫や鳥、草花を調べて記録します!



観察記録から『生きもの地図』を作ります

生きもの地図

春(3~5月頃)の多奈川ビオトープ①



↑ オオタカ



↑ ウグイス



↑ ホオジロ



↑ シロスジカミキリ



↑ コオイムシ(♂)



↑ アマガエル(ニホンアマガエル)



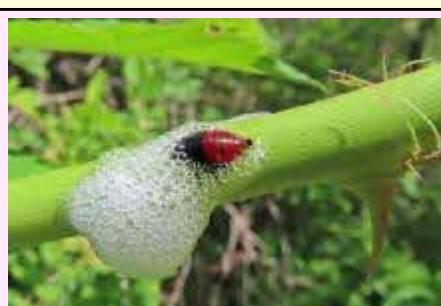
↑ アシナガオトシブミ



↑ ナナホシテントウ



↑ クマバチ(キムネクマバチ)



↑ シロオビアワフキ(幼虫)



↑ カメノコテントウ(産卵)



↑ ヤナギハムシ(成虫)



↑ ケラ



↑ クビキリギス



↑ ジョウカイボン

春(3~5月頃)の多奈川ビオトープ②



↑ カラスノエンドウ



↑ カスマグサ



↑ スズメノエンドウ



↑ ホトケノザ



↑ タネツケバナ



↑ ナズナ



↑ クヌギ(開花)



↑ ヒメオドリコソウ



↑ アケビ(雄花)



↑ ホタルカズラ・ニッポンヒゲナガハナバチ



↑ ナルトサワギク・セイヨウミツバチ



↑ 春のビオトープ池

夏(6~8月頃)の多奈川ビオトープ①



↑ ツバメ



↑ オオスズメバチ



↑ ニホントカゲ (幼体)



↑ ニホンカナヘビ



↑ ミンミンゼミ



↑ アブラゼミ



↑ クヌギシギゾウムシ



↑ ゴマダラカミキリ



↑ マメコガネ



↑ カナブン



↑ カブトムシ(♀)・カナブン



↑ マメコガネ



↑ ナガコガネグモ (♀)



腹側



背中側

↑ コガネグモ (♀)

夏(6~8月頃)の多奈川ビオトープ②



↑ ハラビロカマキリ(幼虫)



↑ シロオビアワフキ



↑ カブトムシ



↑ ミズカマキリ



↑ トノサマガエル



↑ ハラビロトンボ(♂)



↑ コオニユリ



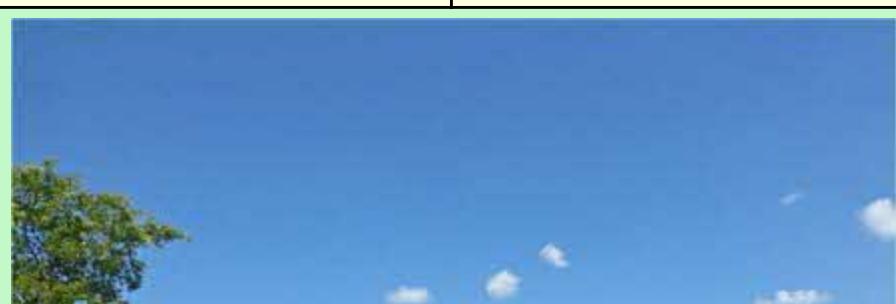
↑ カタバミ



↑ オカトラノオ



↑ ガマ



↑ ヒメガマ



↑ 夏のビオトープ池

秋(9~11月頃)の多奈川ビオトープ ①



↑ モズ(♂)



↑ ジョウビタキ(♀)



↑ カルガモ



↑ ツクツクボウシ (♂)



↑ ホシホウジャク



↑ ナナホシテントウ



↑ セイヨウミツバチ



↑ ニホンミツバチ



↑ コガタスズメバチ



↑ コアオハナムグリ



↑ ジョロウグモ(♀)



↑ ナガコガネグモ(卵のう)



↑ チャバネセセリ



↑ シュレーゲルアオガエル (♀)



↑ ヒメジュウジナガカメムシ

秋(9~11月頃)の多奈川ビオトープ ②



↑ センニンソウ



↑ ボタンヅル



↑ ミズソバ



↑ アレチヌスピトハギ (左:花 右:果実)



↑ コセンダングサ



↑ クサギ



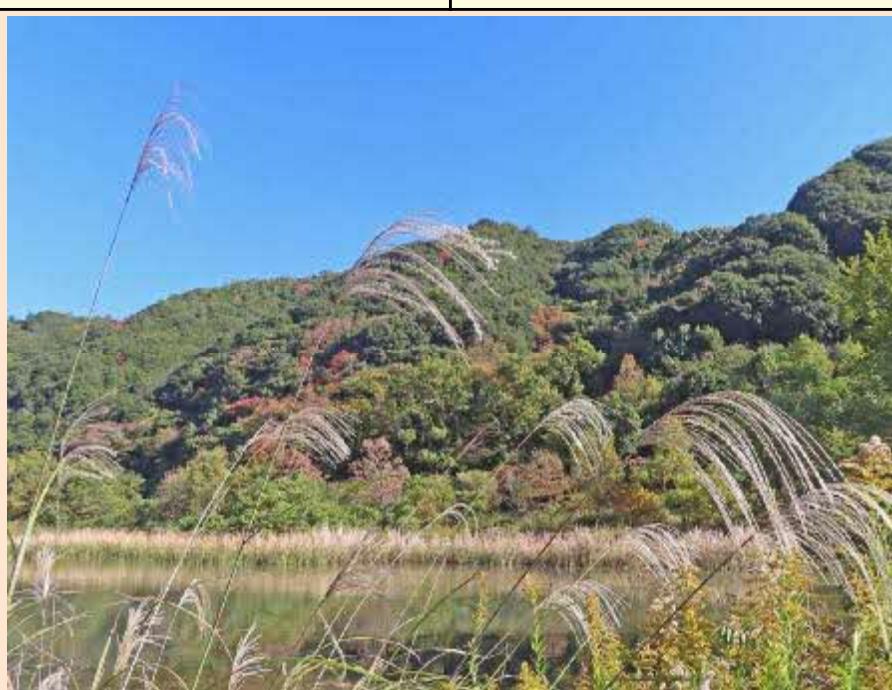
↑ クズ



↑ イシミカワ



↑ メダカ



↑ モクズガニ

↑ 秋のビオトープ池

冬(12~2月頃)の多奈川ビオトープ ①



↑ ノウサギ (左:成体 右:糞)

↑ アライグマ



↑ ジョウビタキ (♂)

↑ メジロ

↑ カワセミ



↑ オオバン

↑ コガモ

↑ ヨモギハムシ (ペア)



↑ ウスタビガ (繭(まゆ)の抜け殻)

↑ クヌギエダイガフシ (虫こぶ)

↑ ヨモギクキワタフシ (虫こぶ)



↑ モリチャバネゴキブリ (幼虫)

↑ チャミノガ (ミノムシ)

↑ オオミノガ (ミノムシ)

冬(12~2月頃)の多奈川ビオトープ ②



↑ はやにえ (オオスズメバチ)



↑ はやにえ (トノサマバッタ)



↑ オオカマキリ (卵鞘)



↑ ハラビロカマキリ (卵鞘)



↑ チョウセンカマキリ (卵鞘)



↑ コガタスズメバチ (古巣)



↑ ガマの穂



↑ ノイバラ (果実)



↑ ホトケノザ (左は白花)



↑ ヤマアカガエル (卵塊)



↑ ウシガエル (オタマジャクシ)



↑ 冬のビオトープ池

多奈川ビオトープを舞う チョウ



↑ モンキアゲハ



↑ ヒカゲチョウ



↑ クロヒカゲ



↑ ルリタテハ



↑ アカタテハ



↑ キタテハ



↑ コムラサキ



↑ アサマイチモンジ



↑ テングチョウ



↑ ウラギンシジミ



↑ アカシジミ



↑ ムラサキシジミ



↑ ミズイロオナガシジミ



↑ コミスジ



↑ ツバメシジミ

※ 季節によって、飛んでいる種類が違ったり、同じ種類でも翅の色が違っていたりします

多奈川ビオトープを飛ぶ トンボ



↑ オニヤンマ



↑ ギンヤンマ（産卵）



↑ タイワンウチワヤンマ



↑ フタスジサナエ



↑ ショウジョウトンボ（♂）



↑ チョウトンボ



↑ ハラビロトンボ（♀）



↑ コフキトンボ



↑ ヨツボシトンボ



↑ ベニトンボ（♂）



↑ ハグロトンボ（♂）



↑ オオアオイトンボ（産卵）



↑ アオイトンボ（産卵）



↑ オツネントンボ



↑ ホソミオツネントンボ



↑ アオモンイトンボ（ペア）



↑ クロイトンボ



↑ ムスジイトンボ



多奈川ビオトープを飛ぶ 赤トンボ



↑ アキアカネ



↑ タイリクアカネ



↑ ネキトンボ



↑ キトンボ



↑ マユタテアカネ



↑ マイコアカネ



↑ ナニワトンボ【青いアカトンボ】



↑ リスアカネ



↑ コノシメトンボ

多奈川ビオトープを跳ぶ バッタの仲間



↑ マツムシ



↑ トノサマバッタ (ペア)



↑ クルマバッタ



↑ キリギリス (ニシキリギリス)



↑ クビキリギス (緑色や褐色の個体のほか、右のような色彩変異個体もまれにいます)



↑ オンブバッタ (ペア ※同色のペアもいます)



↑ コバネイナゴ



↑ サトクダマキモド



↑ ショウリョウバッタ (左は緑色型ペア、右は褐色型メス)



↑ ツチイナゴ (左:幼虫 右:成虫)



↑ オオカマキリ

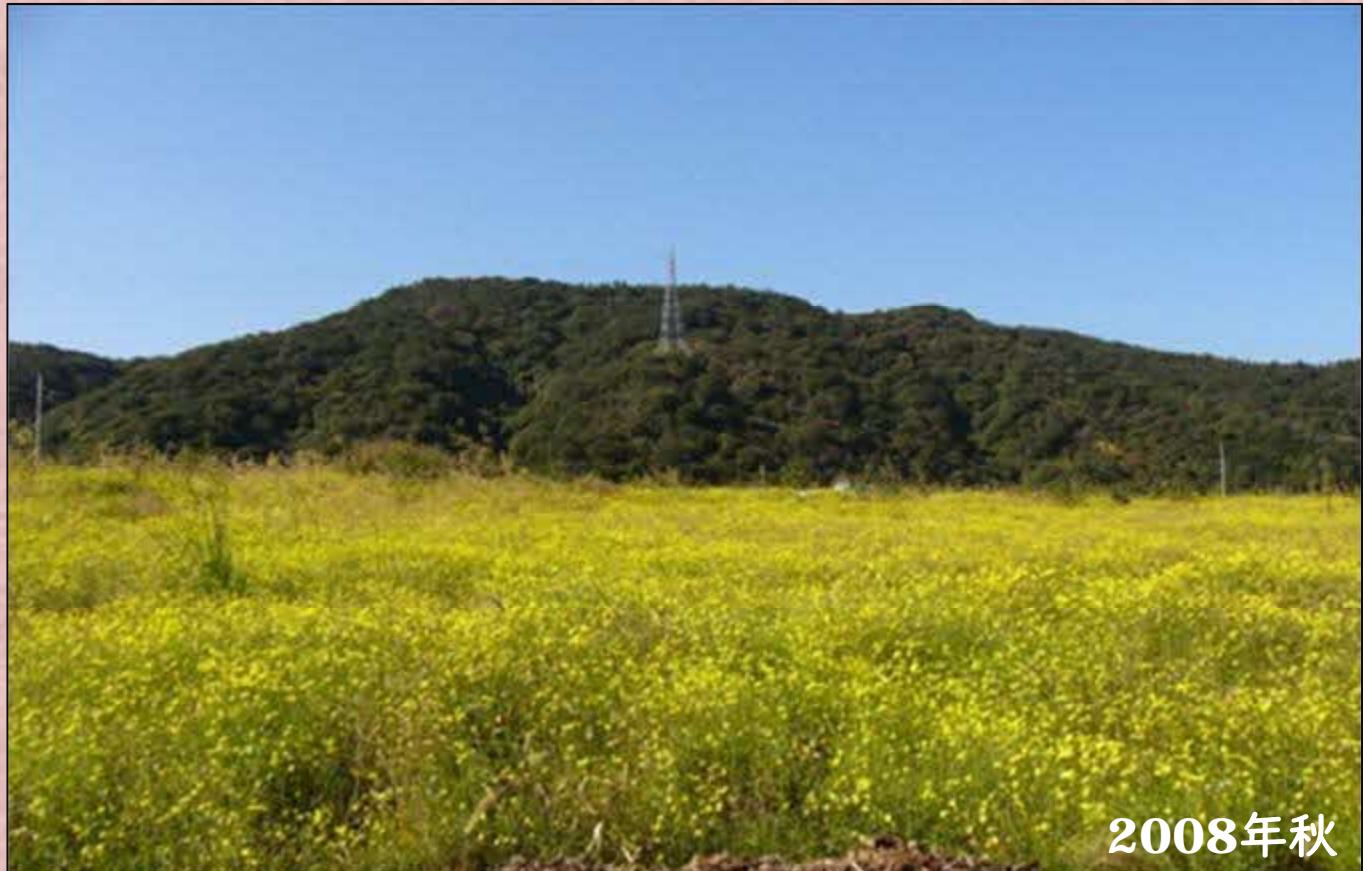
※ バッタの仲間は、同じ種類でもその「体色」に個体差があるようですね

多奈川ビオトープの植生遷移 ①



★10年くらい前までは「ナルトサワギク」(特定外来生物)が全域に広がっていましたが、次第に「セイタカアワダチソウ」や「ススキ」が入り込み始めました

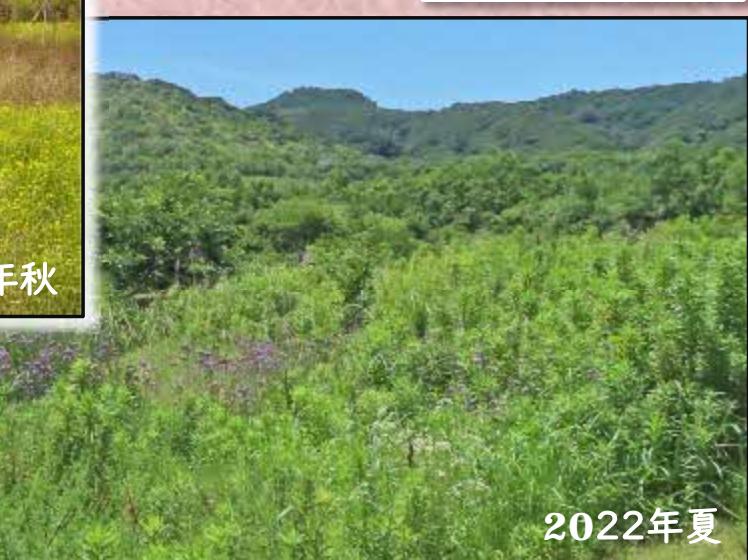
★そして今では…、「セイタカアワダチソウ」と「ススキ」の2種が「競合」しています。
(かつての勢いを失った「ナルトサワギク」は、年々衰退が著しいようです…)



2008年秋



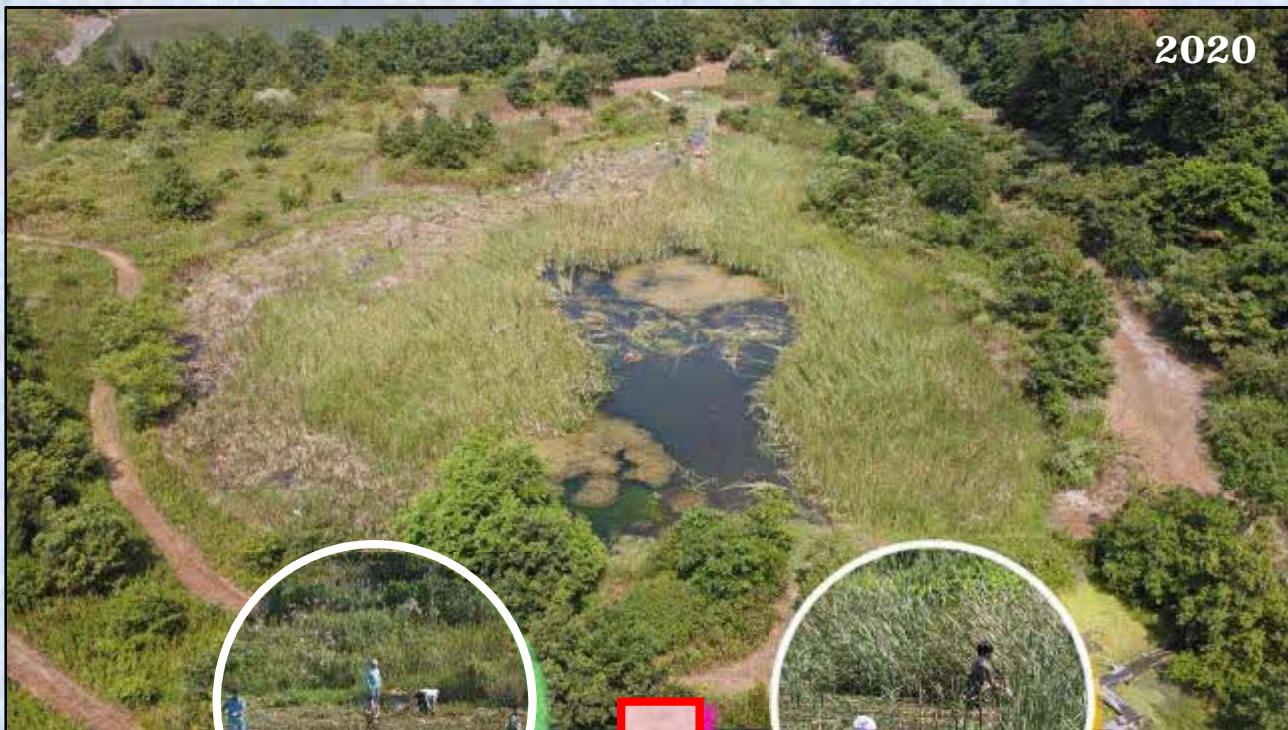
ナルトサワギク



多奈川ビオトープの植生遷移 ②



- ビオトープ池の大半が『ヒメガマ』に覆われて、トンボの種数が減り、ツバメは姿を消しました…
- そこで、2020年3月から「ヒメガマ保全区域」を定め、その区域外の個体の伐採を続けています



多奈川ビオトープでの 食物連鎖 ①



■いろいろな生きものたちが「食う 食われる」の関係でつながっている様子を、観察することができます！



↑ 「アオモンイトトンボ」が「ムスジイトトンボ」を捕食



↑ 「クロイトトンボ」が 小さな虫 を捕食



↑ 「アオメアブ」が 小さな虫 を捕食



↑ 「シオヤアブ」が「コアオハナムグリ」を捕食



↑ 「シオカラトンボ（♀）」が、「ハナアブ」を捕食



↑ 「ハラビロカマキリ」が「ツクツクボウシ」を捕食

多奈川ビオトープでの 食物連鎖 ②



- 今回紹介した「カマキリ」や「クモ」たちはみんな、生まれながらのハンター！
- 自力で獲物を捕獲しないと、生きてはいけないので…



↑ 「オオカマキリ」が「ミツバチ」を補食



↑ 「オオカマキリ」の♀が、交尾中に「♂」を食べる



↑ 「コガネグモ」が「コアオハナムグリ」を捕食



↑ 「ナガコガネグモ」が「シオカラトンボ」を捕食



↑ 「ヒメハナグモ」が「蛾の仲間」を捕食



↑ 「チョウゲンボウ」が「ツチイナゴ」を捕食
(チョウゲンボウは、ヒナの間は親から給餌を受けます)

多奈川ビオトープでの 食物連鎖 ③



■「モズ」のはやにえの画像を集めてみました（晩秋の頃が見つけやすいですね！）



↑ クマバチ（キムネクマバチ）



↑ クビキリギス



↑ ツチイナゴ



↑ ハラビロカマキリ



↑ トグナナフシ



↑ トビズムカデ

ゴマダラチョウの観察



- 「多奈川ビオトープ」のエリア内には、何本かの「エノキ」の木が大きく育っています
- 「ゴマダラチョウ」は年3回くらい発生するのですが、秋にエノキの木で産まれた幼虫は、12月頃になると根元まで降りてきて、落ち葉の裏側に隠れて越冬することが多いです



↑ クヌギの木で樹液をなめています



↑ 地面で水を飲んでいます。口吻は黄色！



↑ エノキの葉に産卵



↑ 卵を拡大して見ると...



↑ エノキの落ち葉の裏で越冬中



↑ 春になると再び木に登って葉を食べます

虫たちの羽化や脱皮の観察



- 「多奈川ビオトープ」の自然観察会では、羽化中や脱皮中の虫たちに出会うことがあります
- それらの中から、「ナナホシテントウ」や「カメノコテントウ」、「ヤナギハムシ」の羽化の様子、「キリギリス」の脱皮の様子を紹介します



↑ 「ナナホシテントウ」の羽化



↑ 羽化したての「ナナホシテントウ」



↑ 羽化したての「カメノコテントウ」



↑ 「カメノコテントウ」の成虫



↑ 羽化中の「ヤナギハムシ」



↑ 脱皮中の「キリギリス」

多奈川ビオトープを舞う ワシ・タカ・ハヤブサの仲間



■「トビ」や「ノスリ」、「ミサゴ」などが上空を舞う姿を、よく見ることができます

■下記の写真はいずれもこのエリア内で撮影（数値は平均的な全長。ノスリとハイタカは非繁殖期に飛来します）



↑ トビ (65cm)



↑ ミサゴ (60cm)



↑ ノスリ (55cm)



↑ ハイタカ (35cm) ※オオタカ (55cm) もいます



↑ ハヤブサ (45cm)



↑ チョウケンボウ (35cm)



■自動撮影カメラを設置しましたので、結構鮮明な画像を撮影できるようになりました

■下記の写真是、いずれもこのエリア内で撮影しました（タヌキやネズミ、コウモリなども、暮らしているようです）



↑ アナグマ



↑ アライグマ



↑ イタチ



↑ イノシシ

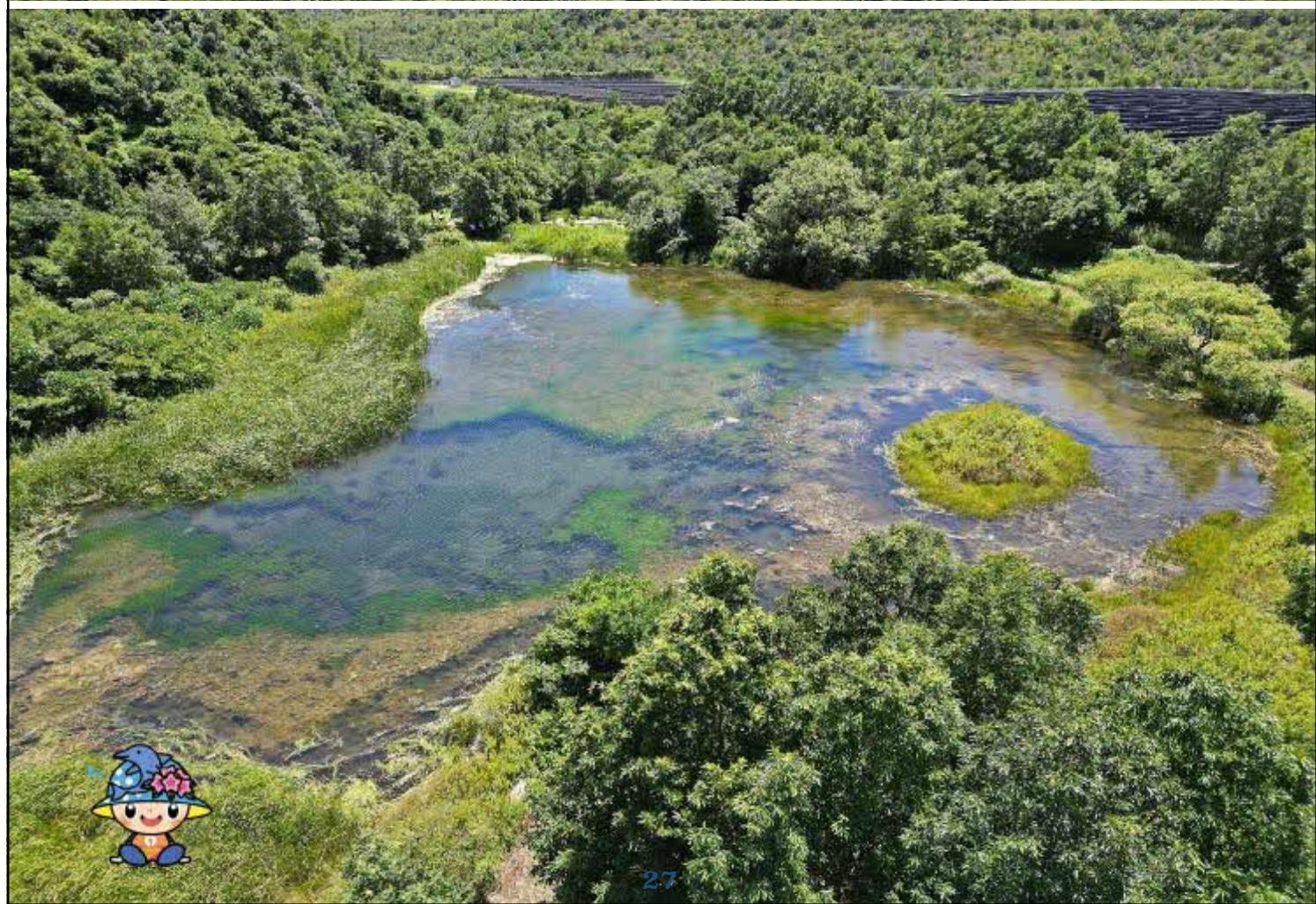
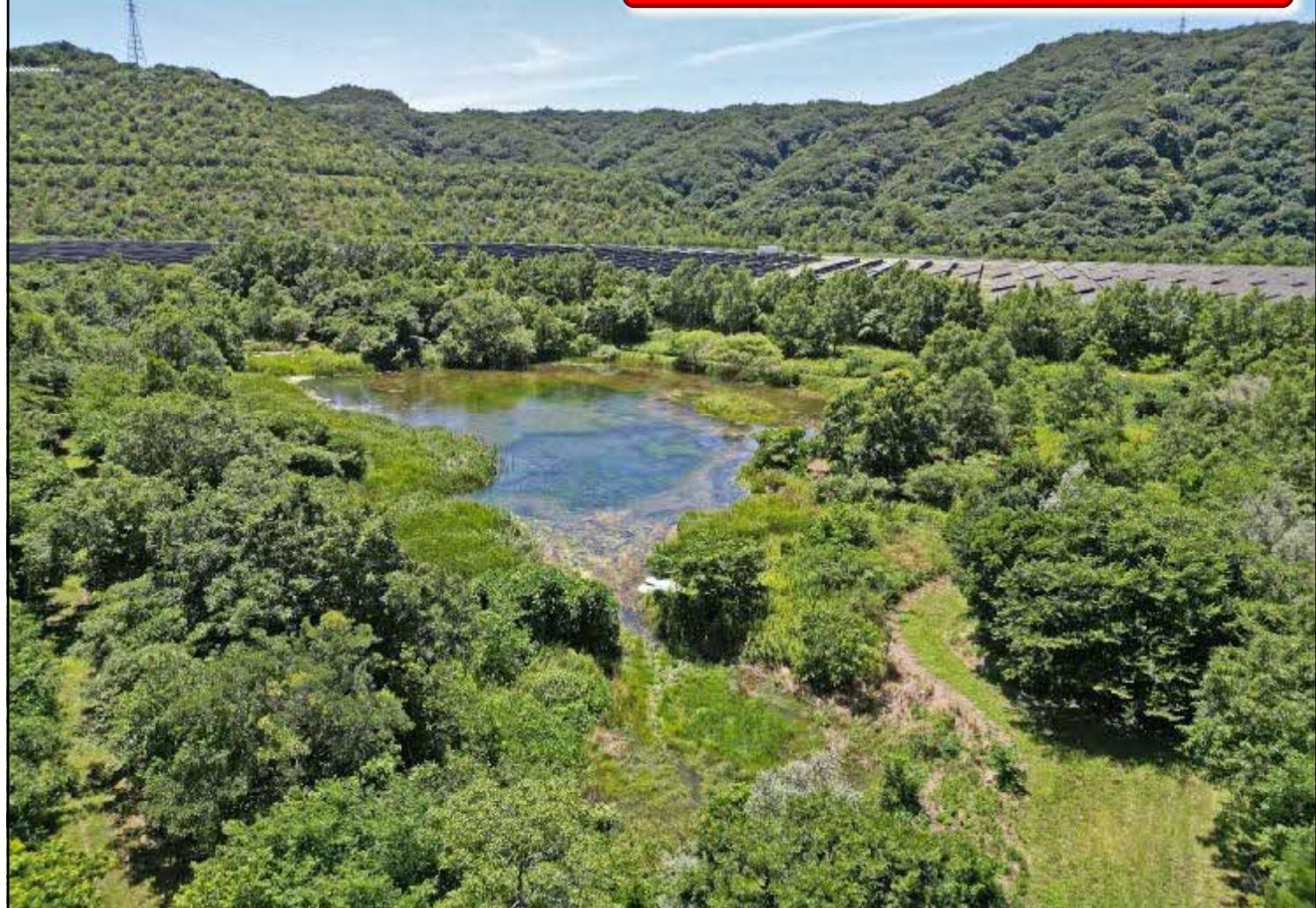


↑ キツネ



↑ ノウサギ

現在の多奈川ビオトープ（2025年7月撮影）



●タナビオメモ●



主催：多奈川ビオトープ企画・運営会議
調査：自然観察会に参加された「こどもたち」！
調査計画：日本ビオトープ管理士会 近畿支部
図鑑製作：池口直樹・中山典子（デザイン）
発行：2026年1月 【無断転載禁止】

